

# 資料

- ① 構成メンバー
- ② 協力研究者一覧
- ③ 研究プロジェクト一覧
- ④ 国際シンポジウム・セミナー一覧
- ⑤ 国内外共同研究・研究交流一覧
- ⑥ 国立大学法人お茶の水女子大学  
ジェンダー研究所規則
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学  
特別招聘教授に関する規則
- ⑧ 『ジェンダー研究』編集方針・  
投稿規程
- ⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト  
プライバシー・ポリシー

## 【資料】①構成メンバー

## 【所長】

猪崎弥生(副学長(学術情報・広報担当)兼附属図書館長)  
石井ケンツ昌子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

## 《任期》

2015(H27)年4月1日～2015(H27)年9月30日  
2015(H27)年10月1日～2017(H29)年3月31日

## 【専任教員】

足立真理子(ジェンダー研究所教授)  
申琪榮(ジェンダー研究所准教授)

2015(H27)年4月1日～  
2015(H27)年4月1日～

## 【研究員】

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)  
棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)  
斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2015(H27)年7月1日～2017(H29)年3月31日  
2015(H27)年7月1日～2017(H29)年3月31日  
2015(H27)年7月1日～2017(H29)年3月31日

## 【特別招聘教授】

マリー・ピコーネ(仏・社会科学高等研究院准教授)  
アン・ウォルソール(米・カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授)

2015(H27)年10月1日～2015(H27)年11月30日  
2015(H27)年11月14日～2016(H28)1月19日

## 【客員研究員】

館かおる(本学名誉教授)

2015(H27)年4月1日～2016(H28)年3月31日

## 【研究協力】

戒能民江(本学名誉教授)

## 【日本学術振興会外国人特別研究員】

ユン ジソ(カンザス大学准教授)

2015(H27)年8月10日～2017(H29)年8月9日

## 【研究協力員】

金井郁(埼玉大学准教授)  
堀芳枝(恵泉女学園大学准教授)

2015(H27)年4月1日～2016(H28)年3月31日  
2015(H27)年4月1日～2016(H28)年3月31日

## 【特任講師】

板井広明

2015(H27)年11月1日～2016(H28)年3月31日

## 【特任リサーチフェロー】

臺丸谷美幸  
仙波由加里  
吉原公美

2015(H27)年8月1日～2016(H28)年3月31日  
2015(H27)年9月16日～2016(H28)年3月31日  
2016(H28)年2月1日～2016(H28)年3月31日

## 【特任アソシエイトフェロー】

吉原公美 [特任リサーチフェロー就任]

2015(H27)年9月1日～2016(H28)年1月31日

## 【技術補佐員】

板井広明 [特任講師就任]

2015(H27)年4月1日～2015(H27)年10月31日

## 【アカデミック・アシスタント】

梅田由紀子  
滝美香  
吉原公美 [特任アソシエイトフェロー就任]

2015(H27)年4月1日～2016(H28)年3月31日  
2015(H27)年6月16日～2016(H28)年3月31日  
2015(H27)年4月1日～2015(H27)年8月31日



## 所長 石井クンツ 昌子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野： 家族社会学、ジェンダー社会学、社会心理学

所属学会： 日本学術会議 連携会員／統計データアーカイブ分科会(副会長)

National Council on Family Relations

日本社会学会(理事)／社会学教育委員会(副委員長)／国際発信強化特別委員会

日本家族社会学会(理事)

日本家政学会家族関係部会(役員)／(編集委員)

福井県男女共同参画審議会(会長)

### 《主な著書・論文・報告書》

- 2016 石井クンツ昌子(監修)坂本有芳(編)『キャリアデザインと子育て：首都圏女性の調査から』お茶の水ブックレット  
お茶の水学術事業会 2016年3月
- 2016 石井クンツ昌子「はじめに」石井クンツ昌子(監修)坂本有芳(編)『キャリアデザインと子育て：首都圏女性の調査から』お茶の水ブックレット お茶の水学術事業会 Pp.4-5. 2016年3月
- 2016 Kumagai, Fumie and Ishii-Kuntz, Masako (Eds.) *Family Violence in Japan: A Life-Course Perspective*. Springer.
- 2016 Ishii-Kuntz, Masako. “Child Abuse: The History and Current State in Japanese Context” In F. Kumagai and M. Ishii-Kuntz, *Family Violence in Japan: A Life-Course Perspective*. Springer. Pp. 49-78.
- 2016 Sasaki, Takayo and Ishii-Kuntz, Masako. “Intimate Partner Violence: Domestic Violence from Japanese Perspectives” In F. Kumagai and M. Ishii-Kuntz, *Family Violence in Japan: A Life-Course Perspective*. Springer. Pp.79-101.
- 2015 牧野カツコ・石井クンツ昌子「母親と父親」柏木恵子(編)『日本の親子』金子書房 Pp.21-44.
- 2015 Ishii-Kuntz, Masako. “Fatherhood in Asian Contexts.” In S. Quah (Ed.), *Handbook of Families in Asia*, Routledge. Pp.161-174.
- 2015 石井クンツ昌子 書評 西村純子『子育てと仕事の社会学』三田社会学

### 《主な講演・報告等》

- 2016 キッザニア東京 パネリスト 3月12日
- 2016 San Diego State University Lecture “Sexuality in Japanese Society Sociological Analysis.” 2月17日
- 2016 葛飾区 区民大学 講義「ママのための女性学：子育て中でも自分らしく」1月15日
- 2015 Japan Foundatin & CA’ Foscari University of Venice, Being Young in Ageing Societies – Japan and Europe, “Parenting and Grandparenting in Contemporary Japan.” Venice, Italy 招待講演 11月12日
- 2015 Korean Association of Family Relations, “A Comparatie Study on Asian Families.” Seoul, South Korea 基調講演 11月3日
- 2015 筑西市 男女共同参画人材育成セミナー 講演「女性の就労と男性の家事・育児参加：男女共同参画社会を目指して」10月30日
- 2015 福井県 みらいきりプログラム 講演「ワーク・ライフ・バランス」7月22日
- 2015 神奈川県立かながわ男女共同参画センター「地域や職場、家庭に見る男女共同参画：男女共同参画の総論」講演 5月20日

### 《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究 A「IT社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」、2014～2018年度、研究代表者



## 専任教員(教授) 足立 真理子

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野: 経済理論、国際経済学、フェミニスト経済学

所属学会等: 日本学術会議連携会員(経済学部会)

経済理論学会(幹事)

経済学史学会

日本フェミニスト経済学会(幹事)

国際フェミニスト経済学会

大阪府立大学女性学研究センター学外研究員

### 主な業績

#### 《書籍》

- 2015 「経済学に女性の居場所はあるのか:フェミニスト経済学の成立と課題」『経済学と経済教育の未来 日本学術会議<参照基準>を超えて』八木紀一郎ほか編、桜井書店、2015年4月
- 2016 「資本主義の変容の契機と開口部」『経済原論研究への誘い:小幡理論をめぐって』足立真理子他編、響文社、2016年1月

#### 《雑誌・論叢》

- 2016 「グローバル金融危機以降のアジア経済社会とジェンダー:金融領域・生産領域・再生産領域の接合序論」『ジェンダー研究 第19号(ジェンダー研究所年報 通巻36号)』所収
- 2016 「金融排除/包摂とジェンダー:金融化された経済へのフェミニスト政治経済分析」『ジェンダー研究 第19号(ジェンダー研究所年報 通巻36号)』所収
- 2016 翻訳:ギャリー・ディムスキ、ジーザス・ヘルナンデス、リサ・モハンティ著、足立真理子訳「人種、ジェンダー、権力と、米国のサブプライム抵当担保ローンと差し押さえ危機:メゾ分析」『ジェンダー研究 第19号(ジェンダー研究所年報 通巻36号)』所収 in *Feminist Economics* No.3 2013



## 専任教員(准教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域  
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース  
生活科学部生活社会科学講座

**専門分野:** 比較政治学(東アジア)、ジェンダーと政治、フェミニズム理論、最近の研究分野は、政治分野におけるジェンダー・クオータと代表性、比較女性運動、ジェンダー主流化政策など。

**所属学会等:** International Political Science Association, American Political Science Association, European Consortium for Political Research, International Feminist Economics Association, 日本政治学会(分野別研究会「ジェンダーと政治研究会」)、日本比較政治学会、日本フェミニスト経済学会、日本社会政策学会、ソウル大学日本研究所『日本批評』海外編集委員、韓国ジェンダー政治研究所研究委員

### 《主な論文・共著》

- 2016 「디아스포라이론과 동아시아속의 재일코리안 (Diaspora theory and *Zainichi* Koreans in the Context of East Asian Politics)」、『일본비평: *Korean Journal of Japanese Studies*』14 호, pp. 22-49.
- 2016 「再生産領域の金融化: 生命保険業の「金融媒介者」論にむけて」(Financialization of Reproductive Sphere and Financial Brokers in Life-insurance Industry)、『ジェンダー研究』第 19 号、27-45 頁(金井郁と共著)
- 2016 「トランスナショナル公共圏と市民連帯」(Transnational Public Sphere and Solidarity Network) 杉田孝夫、中村孝文編、おうふう政治ライブラリーシリーズ『市民社会論』、おうふう出版社
- 2015 “Mixed Effects of Legislative Quotas in South Korea,” *Politics & Gender*, Vol. 11 No.1 March pp. 186-195 (with Jiso Yoon)
- 2015 “Governance,” *Oxford Handbook of Feminist Theory* edited by Mary Hawkesworth and Lisa Jane Disch, Oxford University Press, 304-325
- 2015 “Women’s Mobilizations for Political Representation in Patriarchal States: Models from Japan and South Korea,” *Gender and Power: Towards Equality and Democratic Governance*, M. Hawkesworth and M. Vianello eds. Palgrave Macmillan, pp. 344-365.

### 《主な学会報告》

- 2015 “The “Comfort Women” Issue as Normative Politics between Japanese and Korean Conservative Governments” World Congress for Korean Politics and Society, August 25-27, Gyeongju, Korea
- 2015 “Gendered Power Relations in Interactive Service Work in Japanese Life Insurance Companies” International Association for Feminist Economics, Berlin, Germany, July 16-18 (with Kaoru Kanai)
- 2015 “Challenges to the Institutionalization of Gender Quotas in the Korean Municipal Elections” European Conference of Politics and Gender, Uppsala, Sweden, June 11-13 (with Jiso Yoon)

### 《主な公開講演・シンポジウム報告》

- 2016 濟州平和研究院、『濟州平和研究院開院 10 周年記念政策フォーラム』、「グローバル視点から見た日本軍「慰安婦」問題と韓日合意: 韓日関係の両者関係を超えて」、2016.3.24
- 2015 国立台湾大学、『台湾大学女性学研究プログラム創立30年記念国際シンポジウム』「お茶の水女子大学ジェンダー研究センター」、2015.12.4-5.
- 2015 福岡市、福岡県男女共同参画フェスティバル、基調講演「女性の政治参画とジェンダー・クオータ」2015.11.29
- 2015 ソウル大学日本研究所国際シンポジウム『東アジアにおける在日コリアン』「ディアスポラ理論と在日コリアン」2015.11.2
- 2015 練馬区男女共同参画センターえーる、公開講演「女性の政治参画を考える: クオータ制を実施した東アジアと日本を比較する」、2015.6.6.

### 《競争的資金(国内・海外)》

- ・科学研究費基盤研究 C「女性大統領と女性の政治的代表性: 韓国の朴槿恵を中心に」、2014~2017 年度、研究代表者
- ・科学研究費基盤研究 C「女性の政治参画: 制度的・社会的要因のサーベイ分析」研究代表者: 三浦まり(上智大学)、2015~2017 年度、研究分担者
- ・Academy of Korean Studies “The Role of Political Parties in Promoting Women’s Political Representation in Local Legislatures in Korea” 研究代表者: ユン ジソ(カンザス大学)、2014~2015 年度、研究分担者
- ・Social Science Korea. “East Asian International Relations Theory” 研究代表者: Jae Sung Chun (Seoul National University)、2015~2018 年度、研究分担者



## 特任講師 板井 広明

専門分野: 社会思想史、経済学史、食の倫理とジェンダー

所属学会等: 経済学史学会(編集委員)

日本イギリス哲学会(幹事)

社会思想史学会

政治思想学会

日本フェミニスト経済学会

日本有機農業学会

主な担当業務: 研究プロジェクト「リベラル・フェミニズムの再検討」ほか  
国際教育プログラム「AIT ワークショップ(国際社会ジェンダー論演習)」  
ウェブサイト等による情報発信・広報  
情報機器・ネットワーク管理

### 主な業績

#### 《学会等報告》

- 2015 「日本における肉食の倫理: 人間と動物の共生」"Ethics of Eating Meat in Japan: the Coexistence of Humans and Animals", International Conference: Animals in Japanese Culture and Religion, The IX Days of Japan, 2015年11月17日、The University of Warsaw, Poland
- 2015 「ナッジ再考: 自由・自律・責任」アドバンスト研究セミナーVol.10、2015年12月11日(金)、立命館大学人間科学研究所
- 2016 「ベンサム功利主義とナッジ」(科学研究費基盤研究B、横浜国大「功利主義と公共性」23330067)、2016年3月5日(お茶の水女子大学)

#### 《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究C「食の倫理と功利主義: 食をめぐる規範・実践・ジェンダー」、2012～2016年度、研究代表者
- ・科学研究費基盤研究B「利己心の系譜学」研究代表者: 太子堂正称(東洋大学)、2015～2017年度、研究分担者



## 特任リサーチフェロー 仙波 由加里

専門分野: 倫理学、バイオエシックス、ジェンダー、  
生殖技術に関連する倫理的問題

所属学会等: 日本医学哲学・倫理学会(国際誌編集委員)

日本生命倫理学会

日本臨床倫理学会

日本生殖看護学会

European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)

主な担当業務: 研究プロジェクト「第三者の関わる生殖医療で出生する子どもの福祉と社会における多様な家族のあり方の受容との関係性」

研究プロジェクト「卵子提供を検討しているカップルへの情報提供に関する研究」

研究プロジェクト「諸外国の生殖補助医療における法規制の時代的変遷に関する研究」

IGS セミナー「出生前検査における選択と同意」コーディネーター

国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働」運営担当 ほか

### 主な業績

#### 《著書・論文》

2016 仙波由加里、2016、第7章 I 生殖医療と生命倫理 「3. 不妊治療:人工授精療の倫理的争点と問題点」「3. 生殖家族の懸念と子どもの福祉」「4. 身体の資源化と身体理解」「コラム:ヒト組織標本の保存と利用をめぐる問題」松島哲久、盛永審一郎、村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版、東京、110-111、112-113、118-119、122。

2016 Yukari Semba ed., 2016, IGS Seminar Report “Choice and Consent in Prenatal Testing,” IGS, Ochanomizu University, Tokyo.

2016 仙波由加里、2016、「米国における第三者のかかわる生殖医療の現状」69-112、「カナダにおける生殖医療の現状:利他的な卵子提供からもたらされる問題—」113-121、研究代表者 日比野由里『厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業「諸外国の生殖補助医療における法規制の時代的変遷に関する研究」』金沢大学、金沢。

#### 《学会発表・講演》

2015 「AID 出生者のドナー情報アクセス権とドナーのプライバシー権の拮抗:ボランティアレジストリーに期待される効果」2015年11月8日(日) 第34日本医学哲学・倫理学会大会で報告(査読あり)

#### 《その他》

2015 第27回日本生命倫理学会年次大会、一般演題II、「生殖医療と倫理」座長、2015年11月28日

#### 《競争的資金》

・厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業「諸外国の生殖補助医療における法規制の時代的変遷に関する研究」(平成27年度)研究代表者:日比野由里(金沢大学)、研究協力者



特任リサーチフェロー 臺丸谷 美幸

専門分野: ジェンダー学、アメリカ史(アジア系アメリカ人史)、アメリカ研究

所属学会: 日本アメリカ学会 (JAAS)

日本移民学会

ジェンダー史学会

アジア系アメリカ人研究会 (AALA)

情報文化研究会 (AIC) (運営委員・学術誌編集担当)

主な担当業務: 年報『ジェンダー研究』編集事務局

研究プロジェクト「朝鮮戦争期の日系アメリカ人兵士と市民権を巡る諸問題」

研究プロジェクト「日系アメリカ人女性による朝鮮戦争期の従軍経験」

IGS 主催国際シンポジウム運営担当

主な業績

《著書・論文》

2015 Miyuki Daimaruya “Experiences of Japanese American Soldiers in the Korean War: Analyzing the Case of a Nisei Woman’s Military Service and Resettlement.” In *Toward a More Amicable Asia-Pacific Region: Japan’s Roles*, Edited by Yoneyuki Sugita (Lanham[MD]:University Press of America, 2015),pp27-51. (平成 27 年 12 月刊行)

《学会発表・講演等》

2015 “Cultural Images of Japanese American Nisei Soldiers in the Korean War: Analysis from 1950s ’Hollywood Films” AIA (Asians in America) Symposium, 7 November 2015, La Salle University (Philadelphia[PA,]) 7 November, 2015 (査読あり)

2015 “How Did 1950s Hollywood Films Represent Japanese American Soldiers on the Korean Battlefield?” American Studies Seminar at Osaka University, 大阪大学、平成 27 年 11 月 22 日 (招待講演)

2015 「日系アメリカ人の朝鮮戦争従軍と市民権問題: 自伝 *From Internment, to Korea, to Solitude* の分析を中心に」、日本移民学会第 25 回年次大会、早稲田大学所沢キャンパス、平成 27 年 6 月 28 日 (査読あり)

《競争的資金》

・竹村和子フェミニズム基金助成、研究課題「日系アメリカ人女性による朝鮮戦争期の従軍経験:ジェンダーとエスニシティの視点から」2015 年度、研究代表者



## 研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科教育科学コース

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

**専門分野:** 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、  
セクシュアリティ研究

**主な担当業務:**

ジェンダー研究所運営委員会メンバー

マリー・ピコーネ特別招聘教授プロジェクトコーディネーター

国際シンポジウム「はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか? : 人類学の視座から改めて問う」司会・コーディネーター



## 研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部発達臨床心理学講座

博士前期課程人間発達科学専攻

博士後期課程人間発達科学専攻

**専門分野:** 子ども社会学、教育学

**主な担当業務:**

ジェンダー研究所運営委員会メンバー

IGS セミナー「Women in Palestine」コーディネーター



## 研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・准教授

生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

**専門分野:** 生活経済学、生活経営学、企業文化論

**主な担当業務:**

ジェンダー研究所運営委員会メンバー

研究プロジェクト「社会的企業とジェンダー」メンバー

国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働: 社会的再生産はいかに行われるのか?」討論司会

【事務系スタッフ】



特任リサーチフェロー 吉原 公美

主な担当業務:

ジェンダー研究所事務局統括  
ジェンダー研究所・グローバルリーダーシップ研究所特別招聘教授招聘事務  
ジェンダー研究所特別招聘教授業務活動支援  
ジェンダー研究所全体予算管理  
各種報告書・報告データ作成  
国際シンポジウム等運営 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主な担当業務:

文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理  
AIT ワークショップ事務補佐  
研究所事業事務  
シンポジウム等運営事務・マニュアル作成  
会計処理  
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主な担当業務:

研究所事業事務  
シンポジウム等運営事務  
会計処理  
書類作成・書類整理 ほか

【資料】②協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
<b>【アジア・オセアニア】</b>		
李珍玉 西江大学・韓国	(シ)女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
黄長玲 国立台湾大学・台湾	(シ)台湾はなぜアジアで 2 番目に女性議員が多いのか？	52 頁
	(セ)誰のための議席割り当てなのか？	65 頁
	(シ)女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
日下部京子 アジア工科大学院大学・タイ	(教)AIT ワークショップ	90 頁
アリア・アサリ アン＝ナジャーフ大学・パレスチナ	(セ)パレスチナの女性たち	64 頁
キャサリン・ミルズ モナシュ大学・オーストラリア	(セ)出生前検査における選択と同意	67 頁
<b>【ヨーロッパ】</b>		
クレア・アネスリー サセックス大学・英	(シ)女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
スーザン・ヘメルヴァイト オープン大学・英	(研)アジアにおける「新中間層」とジェンダー	18 頁
	(研)社会的企業とジェンダー	19 頁
	(シ)ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働	59 頁
	(セ)ケアと財政緊縮政策	69 頁
サイモン・モハン ロンドン大学クイーン・メアリー・英	(セ)ケアと財政緊縮政策	69 頁
マリー・ピコーネ 社会科学高等研究院・フランス	特別招聘教授	78 頁
	(シ)はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか？	56 頁
	(セ)”センシティブ”なテーマにかかわる面接調査と質問紙調査	70 頁
<b>【北米】</b>		
スーザン・フランセスカ カルガリー大学・カナダ	(シ)女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
アン・ウォルソール カリフォルニア大学アーバイン校・米	特別招聘教授	81 頁
	(セ)いい兄貴ーわるい弟	72 頁
	(シ)科学と工学を目指す女性へ	62 頁
モナ・リナ・クルック ラトガース大学・米	(シ)女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
キャロル・セロン カリフォルニア大学アーバイン校・米	(シ)科学と工学を目指す女性へ	62 頁
	(セ)セロン先生を囲んで、大いに語ろう	73 頁

氏名・所属	協力事業	参照
ユン ジョ 学振外国人特別研究員 カンザス大学・米	(研) The Role of Political Parties in Promoting Women's Political Representation in Local Legislatures in Korea	27 頁
	(研) 日本の地方政治における女性の政治的代表的性の研究	28 頁
依田富子 ハーバード大学・米	(研) 社会的企業とジェンダー	19 頁
<b>【国内】</b>		
伊田久美子 大阪府立大学	(シ) ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働	59 頁
	(会) 「フェミニスト経済学」研究会	86 頁
伊藤誠 東京大学	(セ) ケアと財政緊縮政策	69 頁
上野千鶴子 立命館大学ほか	(シ) ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働	59 頁
	(セ) ドキュメンタリー映画『何を怖れる』上映会	70 頁
	(教) 大学院特別講義	96 頁
大橋史恵 武蔵大学	(教) AIT ワークショップ	90 頁
大山礼子 駒澤大学	(シ) 女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
小沢佳史 神奈川大学	(研) リベラル・フェミニズムの再検討	38 頁
加藤恵津子 国際基督教大学	(シ) はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか？	56 頁
金井郁 埼玉大学	研究協力者	118 頁
	(研) アジアにおける「新中間層」とジェンダー	18 頁
熊田陽子 学振特別研究員 SPD 首都大学東京	(シ) はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか？	56 頁
定松文 恵泉女学園大学	(シ) ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働	59 頁
新ヶ江章友 大阪市立大学	(シ) はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか？	56 頁
スティー爾若希 東京大学	(研) 東アジアにおけるジェンダーと政治	24 頁
	(セ) 誰のための議席割り当てなのか？	65 頁
	(シ) 女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
	(会) 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (GDRep)	86 頁
柘植あづみ 明治学院大学	(セ) 出生前検査における選択と同意	67 頁

氏名・所属	協力事業	参照
松岡悦子 奈良女子大学	(シ) はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか？	56 頁
三浦まり 上智大学	(研) 東アジアにおけるジェンダーと政治	24 頁
	(研) 女性の政治参画	26 頁
	(シ) 台湾はなぜアジアで 2 番目に女性議員が多いのか？	52 頁
	(セ) 誰のための議席割り当てなのか？	65 頁
	(シ) 女性のリーダーシップと政治参画	54 頁
	(会) 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (GDRep)	86 頁
堀芳江 恵泉女学園大学	研究協力者	118 頁
	(研) アジアにおける「新中間層」とジェンダー	18 頁
グレンダ・ロバーツ 早稲田大学	(研) アジアにおける「新中間層」とジェンダー	18 頁

\*(シ)シンポジウム、(セ)セミナー、(教)教育プロジェクト、(研)研究プロジェクト、(会)関連研究会

## 【資料】③研究プロジェクト一覧

分野／種別／プロジェクト名称	担当	参照
<b>(Ⅰ) 経済とジェンダー</b>		
IGS 研究プロジェクト「アジアにおける『新中間層』とジェンダー」研究	足立	18 頁
IGS 研究プロジェクト「社会的企業とジェンダー」研究	足立	19 頁
科学研究費基盤研究 C「食の倫理と功利主義:食をめぐる規範・実践・ジェンダー」 研究課題番号:24530214(2012～2016 年度)	板井	20 頁
科学研究費基盤研究 B「利己心の系譜学」 研究課題番号:15H03331(2015～2017 年度)	板井	21 頁
<b>(Ⅱ) 政治とジェンダー</b>		
IGS 研究プロジェクト「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申	24 頁
科学研究費基盤研究 C「女性大統領と女性の政治的代表性:韓国の朴槿恵を中心に」 研究課題番号:26360042(2014～2017 年度)	申	25 頁
科学研究費基盤研究 C「女性の政治参画:制度的・社会的要因のサーベイ分析」 研究課題番号:15K03287(2015～2017 年度)	申	26 頁
Academy of Korean Studies The Role of Political Parties in Promoting Women's Political Representation in Local Legislatures in Korea	申・ユン	27 頁
日本学術振興会特別研究員奨励費 「日本の地方政治における女性の政治的代表性の研究」(2015～2017 年度)	申・ユン	28 頁
<b>(Ⅲ) 生殖とジェンダー</b>		
IGS 研究プロジェクト 第三者の関わる生殖医療で出生する子どもの福祉と社会における多様な家族のあり方の受容との関係性	仙波	32 頁
IGS 研究プロジェクト 卵子提供を検討しているカップルへの情報提供に関する研究	仙波	33 頁
厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業 「諸外国の生殖補助医療における法規制の時代的変遷に関する研究」(2015 年度)	仙波	34 頁
<b>(Ⅳ) 歴史・思想とジェンダー</b>		
IGS 研究プロジェクト リベラル・フェミニズムの再検討	板井	38 頁
IGS 研究プロジェクト 朝鮮戦争期の日系アメリカ人兵士と市民権を巡る諸問題:ジェンダーとエスニシティの視点から	臺丸谷	39 頁
竹村和子フェミニズム基金助成 日系アメリカ人女性による朝鮮戦争期の従軍経験:ジェンダーとエスニシティの視点から	臺丸谷	40 頁
<b>特別招聘教授プロジェクト</b>		
<i>Mizuko Kuyō</i> in Japan from 1980 to the Present: A Comparative Perspective	ピコーネ	78 頁
Faith, Politics, and Affection: A Social History of the Hirata Atsutane Family	ウォルソール	81 頁

【資料】④国際シンポジウム・セミナー一覧

開催日	イベント詳細	参照
<b>国際シンポジウム等</b>		
7/30	<p>女性の政治参画を考える院内集会「台湾はなぜアジアで 2 番目に女性議員が多いのか? :議席割当と候補者クオータ」</p> <p>【基調講演】 黄長玲 (国立台湾大学政治学部副教授)</p> <p>【司会】 三浦まり (上智大学法学部教授)</p> <p>【討論】 申琪榮 (IGS 准教授)</p> <p>【共催】 「政治代表におけるジェンダーと多様性」研究会 (GDRRep) 科学研究費基盤研究 (C)「女性の政治参画」</p> <p>【後援】 政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟</p> <p>【会場】 参議院会館 特別会議室</p> <p>【参加者数】 59 名</p>	52 頁
10/12	<p>国際シンポジウム「女性のリーダーシップと政治参画:グローバルな視点から」 〔お茶の水女子大学創立 140 周年記念〕</p> <p>【総合司会】 申琪榮 (IGS 准教授)</p> <p>【司会】 足立眞理子 (IGS 教授)、小林誠 (お茶の水女子大学教授)</p> <p>【パネリスト】 モナ・リナ・クルック (ラトガース大学准教授・米) 「政治分野におけるジェンダー・クオータの現実と神話」 スティール・若希 (東京大学准教授) 「世界における女性の政治的エンパワーメントの支援措置と戦略」 黄長玲 (国立台湾大学副教授・台湾)「クオータ制で当選した台湾の女性議員の実績」 スーザン・フランセスカ (カルガリー大学教授・加) 「女性が代表するものは何か:ジェンダーと閣僚任命」 クレア・アネスリー (サセックス大学教授・英)「女性閣僚を増やす方法とその重要性」 李珍玉 (西江大学社会科学研究所シニアリサーチフェロー・韓) 「韓国初的女性大統領の象徴的代表性」</p> <p>【ディスカッサント】 三浦まり (上智大学教授)、大山礼子 (駒澤大学教授)</p> <p>【挨拶】 室伏きみ子 (お茶の水女子大学長) 中川正春 (衆議院議員、政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟会長) 田中愛治 (早稲田大学政治経済学術院教授/世界政治学会理事長)</p> <p>【閉会の辞】 猪崎弥生 (お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構長/副学長)</p> <p>【共催】 グローバルリーダーシップ研究所</p> <p>【参加者数】 146 名</p>	54 頁
11/14	<p>国際シンポジウム「はたして日本研究にとってジェンダー概念は有効なのか? :人類学の視座から改めて問う」〔お茶の水女子大学創立 140 周年記念〕</p> <p>【報告】 マリー・ピコーネ (IGS 特別招聘教授/社会科学高等研究院准教授・仏) 「胎児の死と中絶をめぐるジェンダー化の諸相」 松岡悦子 (奈良女子大学教授)「ジェンダーなのか文化なのか:文化人類学にとっての難問」 加藤恵津子 (国際基督教大学教授) 「〈男〉〈女〉〈その他: 〉:ポストコロニアルな日本をジェンダー・カテゴリー化する」</p> <p>【ディスカッサント】 新々江章友 (大阪市立大学准教授)、熊田陽子 (日本学術振興会特別研究員 SPD)</p> <p>【司会・コーディネーター】 棚橋訓 (お茶の水女子大学教授/IGS 研究員)</p> <p>【開会の辞】 猪崎弥生 (お茶の水女子大学副学長/グローバル女性リーダー育成研究機構長)</p> <p>【閉会の辞】 足立眞理子 (IGS 教授)</p> <p>【共催】 グローバルリーダーシップ研究所</p> <p>【参加者数】 63 名</p>	56 頁

開催日	イベント詳細	参照
12/1	<p>国際シンポジウム「ジェンダーで見る新自由主義・政策・労働：社会的再生産はいかに行われるのか？」〔お茶の水女子大学創立 140 周年記念〕</p> <p>【報告】 スーザン・ヒメルヴァイト(オープン大学名誉教授・英) 「新自由主義化における危機と社会的再生産の規範の変容」 上野千鶴子(立命館大学特別招聘教授・東京大学名誉教授) 「新自由主義とジェンダー：日本の経験」 定松文(恵泉女学園大学教授)「仕事創出と女性間格差」</p> <p>【ディスカッサント】 足立真理子(IGS 教授)、伊田久美子(大阪府立大学教授)</p> <p>【総合司会・コーディネーター】 足立真理子(IGS 教授)</p> <p>【討論司会】 斎藤悦子(お茶の水女子大学准教授/IGS 研究員)</p> <p>【開会挨拶】 猪崎弥生(お茶の水女子大学副学長)</p> <p>【閉会の辞】 石井クンツ昌子(IGS 所長)</p> <p>【共催】 グローバルリーダーシップ研究所</p> <p>【後援】 大阪府立大学女性学研究センター</p> <p>【参加者数】 134 名</p>	59 頁
1/18	<p>国際シンポジウム「科学と工学を目指す女性へ」</p> <p>【基調講演】 キャロル・セロン(カリフォルニア大学アーバイン校教授) 「固執は文化：職業的ソーシャライゼーションと性差別の再生産」</p> <p>【パネリスト】 加藤美砂子(お茶の水女子大学教授)「理系学会における女性比率」 鷹野景子(お茶の水女子大学教授) 「進路選択における母親の意識の影響に関する調査研究の紹介」</p> <p>【司会】 アン・ウォルソール(IGS 特別招聘教授)</p> <p>【開会・閉会の辞】 石井クンツ昌子(IGS 所長)</p> <p>【共催】 グローバルリーダーシップ研究所</p> <p>【参加者数】 19 名</p>	62 頁
<b>IGS セミナー</b>		
6/26	<p>Women in Palestine (パレスチナの女性たち)</p> <p>【講師】 アリア・アサリ(アン＝ナジャーフ大学教育科学教員養成学部長・パレスチナ)</p> <p>【司会・コーディネーター】 小玉亮子(お茶の水女子大学基幹研究院教授/IGS 研究員)</p> <p>【共催】 大学院「ジェンダー理論文化学」(担当:小玉亮子)、社会理論研究会 2015</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加者数】 49 名</p>	64 頁
7/31	<p>Reserved for Whom? The Electoral Impact of Gender Quotas in Taiwan (誰のための議席割り当てなのか？台湾の選挙におけるジェンダークオータの影響) 〔第 6 回「政党行動と政治制度セミナーシリーズ」〕</p> <p>【講師】 黄長玲(国立台湾大学政治学部副教授)</p> <p>【司会】 申琪榮(IGS 准教授)</p> <p>【討論】 スティール・若希(東京大学社会科学研究所准教授)、三浦まり(上智大学法学部教授)</p> <p>【共催】 「政治代表におけるジェンダーと多様性」研究会(GDRep) 科学研究費助成事業基盤研究(C)「女性の政治参画」</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加者数】 13 名</p>	65 頁

開催日	イベント詳細	参照
11/18	<p>Choice and Consent in Prenatal Testing (出生前検査における選択と同意)</p> <p>【スピーカー】 キャサリン・ミルズ (モナシュ大学准教授・オーストラリア)  「Choice and Consent in Prenatal Testing in Australia」  柘植あづみ (明治学院大学教授)  「What do women want to choose in prenatal testing in Japan?」</p> <p>【コメンテーター】 マルセロ・デ・アウカンタラ (お茶の水女子大学准教授)</p> <p>【コーディネーター・総合司会】 仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加者数】 9 名</p>	67 頁
11/20	<p>Thinking About Care: Before, During and Beyond: An Era of Austerity?  (ケアと財政緊縮政策: 以前・現在・以降)</p> <p>【講師】 スーザン・ヒメルヴァイト (英・オープン大学名誉教授)</p> <p>【討論】 サイモン・モハン (ロンドン大学クイーン・メアリー名誉教授)、伊藤誠 (東京大学名誉教授)</p> <p>【モデレーター】 足立真理子 (IGS 教授)</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加者数】 13 名</p>	69 頁
11/27	<p>Interviews and Questionnaires on 'Sensitive' Subjects: Problems in the Investigation of  sexuality or of suicide (「センシティブ」なテーマにかかわる面接調査と質問紙調査: セクシ  ュアリティあるいは自死の研究実践をめぐる諸問題から)</p> <p>【講師】 マリー・ピコーネ (社会科学高等研究院准教授・仏 / IGS 特別招聘教授)</p> <p>【コーディネーター】 棚橋訓 (お茶の水女子大学基幹研究院教授 / IGS 研究員)</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加人数】 38 名</p>	70 頁
12/4	<p>映画『何を怖れる』上映会〔上野千鶴子大学院特別講義〕</p> <p>【上映作品】 『何を怖れる: フェミニズムを生きた女たち』松井久子監督 (2014 年)</p> <p>【講師】 上野千鶴子 (お茶の水女子大学客員教授、東京大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授、  認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)</p> <p>【司会・コーディネーター】 小川真理子 (お茶の水女子大学基幹研究院リサーチフェロー)</p> <p>【参加者数】 102 名</p>	70 頁
12/16	<p>いい兄貴—わるい弟: Gender Dynamics in An Early Modern Family (近世の家族における  ジェンダーダイナミックス)</p> <p>【講師】 アン・ウォルソール (カリフォルニア大学アーバイン校名誉教授 / IGS 特別招聘教授)</p> <p>【コーディネーター】 石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学基幹研究院教授 / IGS 所長)</p> <p>【言語】 英語</p> <p>【参加者数】 17 名</p>	72 頁
1/18	<p>セロン先生を囲んで、大いに語ろう</p> <p>【講師】 キャロル・セロン (カリフォルニア大学アーバイン校教授)</p> <p>【コーディネーター】 石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学基幹研究院教授 / IGS 所長)</p> <p>【言語】 英語</p>	73 頁

開催日	イベント詳細	参照
<b>他機関事業共催・協力・後援</b>		
10/25	<p>日本学術会議公開シンポジウム「均等法は『白鳥』になれたのか：男女平等の戦後労働法制から展望する」</p> <p>【会場】 日本学術会議講堂 【主催】 日本学術会議社会学委員会・ジェンダー研究分科会 【共催】 フォーラム・「女性と労働 21」 【後援】 大阪府立大学女性学研究センター、IGS 認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)、総合女性史研究会 働く女性の全国センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター 京都橘大学女性歴史文化研究所、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所 一橋大学ジェンダー社会科学研究所(CGraSS)</p>	74 頁

【資料】⑤国内外共同研究・研究交流一覧

■ 国際的な共同研究・研究交流等

地域・国・機関	担当
<b>【アジア・オセアニア】</b>	
<b>韓国</b>	
韓国ジェンダー政治研究所	申
ソウル大学日本研究所	申
ソウル大学政治外交学部	申
ソウル大学アメリカ研究所	臺丸谷
光云大学国際学部	臺丸谷
<b>台湾</b>	
台湾国立大学女性学研究プログラム	申
<b>タイ</b>	
アジア工科大学院大学(AIT)環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻	足立・申 板井
<b>【ヨーロッパ】</b>	
<b>全欧</b>	
European Consortium for Political Research	申
<b>フランス</b>	
ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科	足立
アルザス・欧州日本学研究所	足立
パリ第2大学パリ政治学院	板井
<b>【北米】</b>	
<b>アメリカ</b>	
スタンフォード大学	仙波

■ 国内外関連研究会・連携研究・学協会等

研究会・団体名	担当
「フェミニスト経済学」研究会	足立
政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (Gender, Diversity and Representation (GDRRep))	申
ジェンダー関連学協会コンソーシアム	IGS
日米女性政治学者シンポジウム(JAWS)	申

## 【資料】⑥国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 特別招聘教授
- (4) 研究員
- (5) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) 特任教員
- (2) 客員研究員
- (3) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第6条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第7条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第8条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第9条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(3) 第4条第1項第3号に掲げる特別招聘教授

(4) 第4条第1項第4号に掲げる研究員

(5) その他グローバル女性リーダー育成研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

## 【資料】⑦国立大学法人お茶の水女子大学特別招聘教授に関する規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則(以下「職員就業規則」という。)第 4 条第 5 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)のグローバル女性リーダー育成研究機構に置く研究所において雇用する特別招聘教授に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規則において「特別招聘教授」とは、国際的に著名な研究者又は顕著な業績を有する研究者で、グローバルな視野から本学の教育研究活動の一層の推進及び活性化を図ることを目的として、本学が常勤の教員として採用する者をいう。

(選考)

第 3 条 特別招聘教授の選考は、教員人事会議の議を経て、学長が行う。ただし選考に係る審査は、基幹研究院長に付託するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長の戦略的人事による選考は、役員会の議を経て、学長が行うものとする。

3 前 2 項の選考にあたっては、国立大学法人お茶の水女子大学教員選考基準第 1 条の規定を準用する。

(定年・雇用期間)

第 4 条 特別招聘教授の定年は 65 歳とし、当該定年に達した日以降における最初の 3 月 31 日(以下「定年退職日」という。)に退職するものとする。ただし、学長が特に必要があると認める職員については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合には、5 年以内の期間を定めて雇用することができる。

(給与及び退職手当)

第 5 条 特別招聘教授の給与は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則第 4 条第 4 項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の就業に関する規則(以下「年俸制適用教員の就業に関する規則」という。)

第 2 条第 1 号の規定に基づき採用された教員に関する同規則第 6 条から第 13 条の規定を適用する。

2 特別招聘教授の退職手当は支給しない。

(赴任及び帰国旅費)

第 6 条 特別招聘教授には、赴任及び帰国のための旅費を支給する。ただし、帰国のための旅費は退職後 3 か月以内に本邦を出発する場合に限り支給し、一時帰国のための旅費は学長が必要と認める場合に支給するものとする。

(就業等)

第 7 条 特別招聘教授の就業に関し、この規則に定めのない事項については、職員就業規則の定めるところによる。

2 特別招聘教授の給与に関し、この規則に定めのない事項については、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の定めるところによる。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、特別招聘教授に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に採用される特別招聘教授は、この規則に基づき選考されたものとみなす。

附 則(平成 27 年 10 月 23 日)

この規則は、平成 27 年 10 月 23 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 19 日)

この規則は、平成 28 年 2 月 19 日から施行する。

## 【資料】⑧『ジェンダー研究』編集方針・投稿規程

### 《編集方針》

1. 本年報に論文、研究ノート、書評、ジェンダー研究所の事業に関する報告(研究プロジェクト報告等)、彙報の各欄を設ける。
2. 本年報の掲載論文は、投稿論文と依頼論文から成る。
3. 投稿論文は、投稿規程第4条により、査読の上、編集委員会が掲載の採否を決定する。
  - 3-1 投稿論文1本に対して査読は2名以上で行うこととする。
  - 3-2 査読者は、原則として、編集委員会のメンバー、また必要に応じて学内外の専門分野の研究者から選定する。投稿論文執筆者が本学大学院生である場合にはその指導教官を査読者に加える。
  - 3-3 投稿論文には番号を付し、執筆者名は伏せた状態で査読を行う。
  - 3-4 査読結果は共通の査読評価用紙を用い、定められた基準により評価する。
  - 3-5 掲載決定日を本文末に記す。
4. 依頼論文、ならびにジェンダー研究所の事業に関する報告は、編集委員会で閲読し、必要に応じて専門分野の研究者の助言を求めた上、編集委員会が掲載の採否を決定する。
5. ジェンダー研究所の事業に関する報告のうち、編集委員会が論文として掲載することが適当であると判断した場合には、投稿論文に準じて査読を行った上、論文として掲載することがある。
6. その他各号の枚数、部数、企画等、年報の編集に関する諸事項は、編集委員会が検討の上、決定する。
7. 『ジェンダー研究』に掲載された内容は全てジェンダー研究所のホームページおよびお茶の水女子大学教育・研究コレクション TeaPot に登録、公開される。
8. 投稿論文や研究ノート等には、英文要約を添付する。200 語以内とする。
9. 投稿論文や研究ノート等には、その内容を的確に表すキーワードをつける。5語以内とする。
10. 翻訳投稿をする場合、原則として論文「解題」を行う。

### 《投稿規程》

1. 『ジェンダー研究』の内容は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
2. 投稿者は、原則として、本学教職員・大学院生・研究生・研修生・卒業生、本研究所の研究員、研究協力員、および本研究所長が認める本研究所の活動に関係の深い研究者(研究プロジェクト参加者、研究会報告者など)とする。
3. 投稿する原稿は未発表の初出原稿とする。
4. 投稿原稿は完成原稿とし、レフェリーによる審査の上、編集委員会が採否を決定する。
5. 投稿申し込みをした後で投稿を辞退する場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
6. 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表その他が多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
7. 掲載原稿は、抜き刷りを贈呈する。なお、それ以上の部数については、あらかじめ申し出があれば執筆者の自己負担によって増刷できる。
8. 原稿執筆における使用言語は原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
9. 投稿原稿は原則として、
  - 9-1. 日本語の原著論文は注・図表を含めて 20000 字以内、

- 英語の原著論文は注・図表を含めて 8000 語以内、
- 9-2. 日本語の研究ノートは注・図表を含めて 15000 字以内、  
英語の研究ノートは注・図表を含めて 6500 語以内、
- 9-3. 日本語の研究活動報告は注・図表を含めて 6000 字以内、  
英語の研究活動報告は注・図表を含めて 4500 語以内、
- 9-4. 日本語の書評は 4000 字以内、英語の書評は 1600 語以内とする。
10. 日本語については当用漢字とし、現代仮名づかいを用いる。なお、引用文等に関して旧漢字、旧仮名づかい等の問題が生じる場合には、前もって申し出ること。
11. 論文等の提出時には、名前、論文タイトル(副題も含む)の英語表記も表紙に記しておく。ただし、タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。
12. 図・表・写真および特殊な文字・記号の使用については編集委員会に相談すること。
13. 原則として原稿はワードプロセッサで入力し、原稿を印刷したもの 2 部を提出すること。原稿のデータファイル CD-R 等の媒体に記録して、それを添付して提出のこと。
14. 図・表を使用する場合は、同一ディスクに別ファイルを作成する。
15. 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める<『ジェンダー研究』執筆要項>に従う。
16. 翻訳の投稿に関しては、投稿者が原著者から翻訳許可の手続きを行い、許可取得後に投稿する。そのさいの費用に関しては投稿者が負担する。なお、翻訳投稿をする場合、原則として論文「解題」を行う。
17. 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、ジェンダー研究所の許可を必要とする。
18. 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。そのさいの費用に関しては投稿者が負担する。
19. 投稿論文や研究ノート等の最終原稿(※)には、
- 19-1. 英文要約を添付する。200 words 以内とする。なお、英文原稿の場合は、要約を日本語としてもよいが、事前に確認のこと。
- 19-2. 内容を的確に表わすキーワードをつける。5ワードまでとする。
- (※)掲載決定後に修正した原稿を指す。

(2016年7月4日改定)

## 【資料】⑨ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

### 附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。